



平成 30 年 9 月 9 日

「平成 30 年北海道胆振東部地震」に関する会長談話

2018 年 9 月 6 日未明に発生しました「平成 30 年北海道胆振東部地震」により犠牲になられた方々に心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りします。同時に、未だ安否不明の方の一刻も早い救出と、被災者の皆様におかれましては、一日も早く日常生活を取り戻されることをお祈りいたします。

平成 30 年北海道胆振東部地震は、9 月 6 日午前 3 時 7 分頃の北海道胆振地方中東部を震源とし、地震の規模は M6.7、震源の深さが 37km の地震です。勇払郡厚真町では、北海道における観測史上初めて最大震度 7 を観測し、震度 6 強を安平町、むかわ町において、また震度 6 弱を札幌市東区、千歳市、日高町、平取町で観測するなど、胆振・石狩・日高地方を中心に広範囲にわたって強い揺れを観測しました。この強い震動は、厚真町を中心に、火山性堆積物からなる急斜面で数多くの土砂災害を引き起こし、被害を拡大させました。また札幌市東部では大規模な液状化現象が起きました。さらに苫東厚真発電所の停止による全道にわたる大規模停電が、その後の市民生活に大きな影響を与えております。

平成 30 年北海道胆振東部地震の地震災害の詳細は、今後の調査・研究結果によりますが、今回の災害の背景に、この地域における地質学的な特徴が反映していることは言うまでもありません。今回の地震の震源域は、石狩低地、夕張山地、日高山脈の接合部にあたり、また西方の支笏・洞爺地方は火山活動の活発な地域にあたります。地殻の構造や断層の配置、加えて表層の地質条件が地震災害に大きく関係します。これらを総合的に理解、解釈することが災害の予測と減災に必要不可欠です。そのためには、基礎となる地質学的研究を精力的に進め、最新の知見を災害の予測と減災に活かす必要があります。日本地質学会は、学術研究の発展と最新の知見の普及・教育を推進し、多くの市民の皆様、そして関係諸機関と共に、最新の地質学的知見を活かして自然災害の予測と防災・減災方策を社会と連携して追求してまいりたいと思います。

今後、今回の地震に関する調査報告や研究成果については、学会公式サイトから、随時、発信してまいります。

一般社団法人日本地質学会
会 長 松田 博貴

連絡先:

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15

(社)日本地質学会事務局

電話 03-5823-1150 ファックス 03-5823-1156

e-mail main@geosociety.jp

URL <http://www.geosociety.jp>